

＜速報＞ 民間委託に関するアンケート調査結果

■アンケート概要

- ・実施期間：2006年10月31日～11月11日
- ・調査対象：市川市立欠真間保育園 全園児保護者
- ・実施方法：アンケート用紙配布後、各保護者による記入・提出
- ・回収世帯数：85（在籍世帯数104、回収率81.0％）

11月13日提出時点の集計結果

■アンケート結果の概要

＜注：結果速報、暫定版＞

＜全体概要＞

今回のアンケートから、保護者の多くは、現在の保育内容に満足していることがわかる。そして、今の保育環境継続を望んでいる回答が多く、民間委託に反対と答える保護者が多数を占めた。一方で、私立保育園の保育の質や多様な保育などを期待して、民間委託に賛成という意見も一部に見られた。委託に反対する人は、保育士の入れ替えへの不満が大きく、民間になると保育士の入れ替わりが激しくなることや、ベテラン保育士の数が減ることや運営法人が今の段階でわからないこと、子どもが情緒不安定になることや保護者・子どもともに負担が大きいことを反対理由として挙げている。

民間委託を受け入れる条件として、在園児全員の卒園まで延期する、もしくは保護者の理解が得られるまで延期する、という意見が多い。自由記述には、市の進め方に納得がいかない、必要性が理解できないなどの不満が数多く寄せられており、保護者の理解が未だに十分得られていない状況にあると考えられる。

＜保育士について＞

保育士の入れ替えに関して、9割以上の回答者が「反対」「どちらかといえば反対」と答えている。受け持ち人数増大、保育士の入れ替わりが激しくなることについても同様である。

＜看護師・栄養士の配置について＞

看護師の配置について、「必要」42%「どちらかといえば必要」45%で、約9割が必要であると回答している。栄養士の配置について、「必要」73%、「どちらかといえば必要」21%で、必要であると明確に答えた割合が非常に高くなっている。

＜障害児保育について＞

「必要」40%「どちらかといえば必要」47%で、約9割の回答者が必要と回答している。

＜時間内保育について＞

「現状に満足」が54%、「どちらかといえば満足」が34%で、回答した保護者の88%が、今の時間内保育の内容にまずまず満足していると言える。不満・どちらかといえば不満と答えたのは9%であった。オプション保育を別料金で行うことに関しては保護者によって意見が二つに分かれており、必要・どちらかといえば必要が47%、不必要・どちらかといえば不必要が46%と同程度であった。

＜時間外保育について＞

「現状に満足」が60%、「どちらかといえば満足」が20%で、回答した保護者の80%が時間外保育の内容にまずまず満足していると言える。不満・どちらかといえば不満と答えたのは19%であった。19時15分以降の延長保育に関して、賛成29%、どちらかといえば賛成35%で、賛成する割合が高い。時間外保育の質の変化に対して、反対・どちらかといえば反対と答える割合が約9割と高くなっている。

＜保育以外の別途料金徴収について＞

別途料金の徴収についても、反対・どちらかといえば反対と答える割合が合計約9割と高くなっている。

＜現状の保育環境継続について＞

公立保育園に入園したのだから同じ環境で卒園させたいという意見に対して、そう思う65%、どちらかといえばそう思う28%と9割以上の回答者が保育環境継続を希望している。

＜民間委託について＞

反対40%、どちらかというのと反対34%で、保護者4人のうち3人は反対している。一方、よくわからない人が13%、賛成・どちらかというのと賛成と答えた人が8%であった。委託に賛成している割合は、現状の時間内保育への不満を感じている割合と合致している。

＜賛成理由について＞

「私立保育園でも質の高い保育が行われているから」「今までにない新しい行事が増えるから」「男性や若い保育士による多様な保育が期待できるから」「運営する法人の保育方針や意気込みに期待したい」という回答が71%で多い。次に、「市川市の認可保育園には変わりなく信頼できるから」という回答も57%と半数以上である。

＜反対理由について＞

「保育士が全員入れ替えになる」という理由が回答者の 94%で圧倒的に多い。次に多いのは、「保育士の入れ替わりが激しくなるのが心配だから」「公立に入園したのだから、今のままで継続すべき」という理由が 71%である。その他に、「ベテラン保育士の数が減るから」「どんな法人が運営するのかわからない」「子どもが新しい保育環境で情緒不安定になる心配がある」「子どもや保護者が委託に際してさまざまな負担を強いられる」「今の保育園の長所が失われる心配がある」という理由も 60%以上で高くなっている。

＜民間委託を受け入れる条件について＞

「在園児全員が卒業するまで委託時期を延期」が 59%で最も多く、Q8 同様に、入園当初と変わらない環境で卒園させたいと願う保護者が多い。次に多いのは、「保護者の理解が得られるまで委託時期を延期」で 46%である。一方で、「どんな条件であっても民間委託は受け入れられない」が 24%、「保護者（代表）が法人選定に関わる」が 24%であった。

＜保護者の意見対立時の解決方法について＞

「十分に話し合う」が 56%で最も多く、「多数決で決める」と答えたのは 32%であった。民営化対策委員会における意思決定に際しては、数の優位性だけでなく、みんなで十分に納得するまで意見交換を行う機会を持つことが重要と思われる。

＜市川市の保育園民間委託化の動きに関する自由回答＞

保護者を無視して委託を決定した市の進め方に納得がいけない、説明不足、もっと時間をかけるべきといった声が数多く見られた。また、民間委託の必要性やメリットがよくわからないという意見や、強引に進める姿勢に抵抗を感じる意見が見られた。説明会参加の負担感や参加するほど不信感が募る、保護者説得に必要な内容が薄いといった市への失望感も示されていた。また、保育料や現状の市川市のサービスが他自治体に比べて劣っているにもかかわらず改悪するのが理解できない、という意見も複数見られた。他の市がやっているからブームに乗っているだけでは、なぜ保育園に手をつけなければならないのか理解できない、という声もあった。現状の、給食の質の高さへの評価や年配保育士への評価の声も見られた。

一方で、保育に欠ける子供が増加している状況は理解できる、仕方がない、意見を聞いてもらえるだけまし、といった容認する意見も見られた。さらに、事態を進めるため、現状を超える保育環境実現に具体的な話し合いを積み上げるべき、子供たちが安心して過ごせる方法を考えていく方が大切、という意見もあった。

＜民営化対策委員会の活動に関する自由回答＞

反対色が強すぎて中立組織とは思えない、反対勢力が強すぎると活動があだになるおそれがあるのでは、という意見が見られた。一方、委員会の活動への感謝や、保護者の力が弱いと市の思い通りになってしまう、諸条件で参加できず申し訳ないという声も見られた。

さらに、中立的に全体意見を取りまとめてほしい、様々な方向からメリット・デメリットを検討し委員会の方向性を確認して進めたらよいのではないかと、大人の満足より子供の満足を第一に考えてほしい、反対が多数集まった場合には委託を中止させていただきたい、親子が楽しむ場であるつくしんぼ会への影響がないように願いたい、といった活動への期待と要望が述べられていた。